

しずおか

Shizuoka Junior High School Attached to the Faculty of Education of Shizuoka University



学びの自覚

研究初年度を終えて

研修部長 杉山 慎一郎

今年度は、新たに「学びの自覚—教科で願う学びを子どものあらわれから考える—」という主題・副題を設定し、教科ならではの文化を味わう授業を実践する中で、子どもたちのあらわれから「教科で願う学び」を私たち自身が捉え直すことをしました。9月に理科で行った全体研究では「電流と磁界の関係性という題材の本質にせまる学び」と「仮説、実験、結果、考察というサイクルからなる科学的探究のプロセス」が教科で願う学びとして、子どもたちのあらわれから見いだされました。それを踏まえて、各教科でグループ研修を行い、少しずつですが、各教科の「教科で願う学び」が明確になってきています。教科ならではの文化を味わう授業を実践することで、子どもたちから学びのあらわれが見いだせたことは、今後「学びの自覚」を主題として研究を進めていくことへの道筋になったと感じています。また、子どもたちのあらわれを学びとして見とることは、私たちが普通の授業で子どもたちのあらわれを見とる目を養い、教科観、題材観を深めていくことにつながると考えています。本年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、研究協議会や先進講話でご来校いただくことはできませんでしたが、今後も多くの先生方にお力添えをいただきたく思います。



撮影：2019年6月

オンラインで先進講話を行いました

教科学習で期待する子どもの姿 —深い学びと資質・能力の育成—

上智大学総合人間科学部 教授
講師：奈須 正裕 先生



1月21日(木)に上智大学の奈須正裕教授をお招きし、ご講演をいただきました。今年度は急遽オンライン開催に変更しての開催となりましたが、県内から150名を超える先生方が参加してくださいました。教科の本質である「見方・考え方」にせまる指導のあり方や、教科学習における個別最適な学びと協働的な学びの往還、形成的評価を重視していくことなど、これからの授業づくりへのご示唆をいただく時間となりました。

令和2年度 研究紀要が完成しました

本年度の授業実践を中心に、研究の成果と課題をまとめました。ぜひ、以下のリンクからご覧ください。



研究書籍のご案内

対話が深める子どもの学び

—「教科ならではの文化」を味わう授業—

明治図書刊 本体価格 2,200 円

本書では、各教科が考える「教科ならではの文化」を味わう授業について、具体的な子どもの姿を通して提案します。本書に関するお問い合わせは、本校研修部まで。書店・オンライン書店等でもお求めできます。



今年度より「学びの自覚」を主題に設定し、新たな研究がスタートしました。みなさんは、各教科で願う学びの姿をどのようにとらえていますか。本研究では、まず子どもたちの学びの姿を改めて考えることから始めました。9月に理科で全体研究、10月以降はグループ別研修を行い、願う学びを子どものあらわれから見とり、分析する試みを行いました。各教科のQRコードをスキャンすると、授業実践の詳細や成果と課題をご覧いただけます。残念ながら今年度は研究協議会を実施できませんでしたが、今後とも多くの先生方と授業づくりについて意見交換ができれば幸いです。

国語科

人生を選択するということ -安部公房『鞆』- (第3学年)



多くの選択肢の中から自分の意志で選ぶことが自由? 制限された中で生きることが自由? この作品を通して、子どもたちの価値観は揺さぶられていきました。「鞆」の象徴性をとらえ、人生の道のように選択していくことがよいのだろうかと思ひながら、作品の世界に没頭していく子どもたち。さまざまな描写を関連づけたり、自分の経験と結びつけたりしながら作品の本質にせまっていくことができました。(小野祐一郎・木下聡美・繁田美帆)

社会科

産業革命がもたらした世界 -産業革命は当時の世界をどのように変えたのか- (第2学年)



「産業革命は当時の世界をどのように変えたのか」という問いを共有しました。子どもたちは産業、経済、外交、生活の視点から資料をもとに調査を行い、意見を共有しました。産業革命当時の社会全体の変化について考察していくうちに、現在の社会や自分の生活についてまで考えが及んでいきました。(勝又悠太・望月慈希)

数学科

フェルミ推定と標本調査で考える 夢のジャガイモプロジェクト (第3学年)



「耕作放棄地でじゃがいもを栽培するとどれくらい収穫できるだろうか」という課題に対して、子どもたちはフェルミ推定し、さらに正確な推定をするため、標本調査していきました。中学校生活最後の題材を、既習の知識をもとに、統計的に解釈や判断をしたり、誰もが納得するための明確な根拠を示したりする姿が見られました。(安濃勇太・菊野慎太郎・杉山元希)

理科

「ゆらゆら人形」が動く仕組み -導線1本は磁界をもつか- (第2学年)



太陽光でユラユラ動く「ゆらゆら人形」はコイルと磁石で動いています。子どもたちはコイルと磁石で「ゆらゆら人形」が動く理由を追究しました。追究を通して、電流の周りに磁界が発生すること、コイルにするとその磁界が増幅されること、磁界の中で電流が流れると決まった向きに力が発生する規則性を見出すことができました。(井出祐介・高橋政宏)

音楽科

交響曲第5番ハ短調《運命》 -曲のしくみに注目して、オーケストラの名曲を味わおう!- (第2・3学年)



生誕250年となったベートーヴェンの生き様や精神へ思いを馳せながら、交響曲第5番ハ短調《運命》を鑑賞しました。子どもたちは、「動機」「形式」「楽器の音色」などを根拠に、感じ取ったことや考察したことを語り合いながら、鑑賞を深めていきました。そして、ベートーヴェンの追求し続けた「芸術としての音楽」に価値や可能性を見出すことができました。(小林真人)

美術科

のらもじ発見プロジェクト -発見!分析!まだないフォントを創造しよう- (第1学年)



クリエイターの下浜臨太郎氏にご協力いただき、「のらもじ発見プロジェクト」に挑戦しました。街中にある看板の文字を手がかりにして特徴やルールを分析し、対話を重ねながらフォントを創作しました。デザイン的な見方や考え方に気づいたり、それを共有したりすることを通して、新たな意味や価値を見出すことができました。(萩原彰彦)

保健体育科

球技 ゴール型 ハンドボール -ずれから生まれるスペースを巡る攻防- (第1学年)



子どもたちが、組織攻撃と組織防御におけるずれから生まれるスペースを巡る攻防について思考することができるように本題材ではハーフコートで授業を実践しました。ハンドボールの局面をとらえながら対話をし、思考と体現を繰り返した子どもたちからは、達成感や仲間との一体感を味わう姿が見られました。(杉山慎一郎)

技術科

人と環境にやさしいスターリングエンジンに秘められた浪漫 -生み出されるピストン運動を異なる動作に変換する- (第2学年)



自然の熱源を利用すれば、環境を破壊せずにエネルギーを生み出すスターリングエンジンを製作し、その活用場面について語り合いました。生み出す力が弱い場合、実用的でないと考えた子どもが、宇宙空間で利用されている事実を知り、その価値を創造していきました。新たな価値を生み出すためには、様々な視点からとらえ直すことが必要だと実感しました。(本部康司)

家庭科

みんなで子どもを育てる社会に向かって (第3学年)



15歳が考える「よりよい子育て」。幼児にかかわる人たちの思いにふれたり、幼児の発達の特徴を探ったりしながら、様々な立場から考えました。今の自分に何が出来るか、未来の自分はどうか、人と協力するとはどういうことか、今後の社会をどうつくるか……。題材を通して、社会の一員として思いをもつことができました。(堀池美衣)

英語科

“Should we respect our culture or their cultures?” (第3学年)



日本で昔から使われてきた寺院をあらわす記号は世界の人々に不快感を与えることがあると知り、その記号をそのまま使い続けるのかそれとも変更すべきかについてディベートを行いました。異言語・異文化をもつ人々とのコミュニケーションに難しさを感じながらも、よりよいコミュニケーションとは何かについて考え、仲間と意見を伝え合いました。(池田卓弥・植木さつき・小池智美)